

くすりと健康のはなし

薬包紙^{くやくほうし}

第20回


 一般社団法人岐阜県薬剤師会
理事 鈴木 学

我々には外界からの異物(抗原)を排除して体を守る機構(免疫)が備わっています。アレルギーとは免疫反応が過剰に起き生体にな利な現象を起こすことであり、アレルギー反応が起こるには、感作(侵入してきたものを異物と判断して記憶し、再侵入に向けて攻撃体制となっていること)が前提となります。皮膚は内臓を守る最表層の臓器であり、皮膚の最表層には角質というバリアが存在します。これが崩れると抗原が侵入しやすくなり、皮膚炎を起しやすくなります。掻けば掻くほど痒くなるのはこのためです。また、フィラグリンというタンパク質が角質を守っていますが、日本人のアトピー性皮膚炎患者の27%にフィラグリンの異常があることがわかってきました。

さて、小麦加水分解物含有石鹼による小麦アレルギーのニュースは記憶に新しいですね。これは角質が薄い顔に使用したことや石鹼が角質を壊す方向に働いた結果、小麦加水分解物で経皮感作され、後に小麦を経口摂取したこと

食物アレルギーにスキンケアが有効?!

小麦アレルギーが起きたものです。よって、食物アレルギーの予防にスキンケアはとても重要と言えます。健全な皮膚を維持するためには、石鹼の泡で黄色ブドウ球菌等の雑菌を吸着して汚れを落とし、入浴後は保湿剤等でのケアが肝心です。保湿剤は乾燥部位に塗布すると伸びが悪いので、皮膚温が高く、角質内の水分が十分にある入浴後に塗布するのが好ましいです。

ところで、乳幼児の食物アレルギーの多くは成長とともに改善しますが、この理由に腸管免疫の成熟が挙げられます。経皮感作はアレルギーを増悪方向に導きますが、腸管には免疫反応を抑制する方向(経口寛容)に働く仕組みが備わっています。近年、後者の体内免疫システムを利用した経口免疫療法(原因食物を症状が出ない程度に毎日食し、アレルギーを治す方法)の成功例が増えてきています。現在、花粉症ワクチンも開発中とのこと、アレルギーを根治できる日はそう遠くないかもしれません。